

高校の地域連携に関わる動向と現状

浦崎 太郎

大正大学 地域構想研究所 教授

(要旨) 高校と地域の連携は、地方創生をきっかけに気運が高まり、文部科学省が「社会に開かれた教育課程」等の施策を打ち出してから推進すべき必要性が高まっている。危機感や可能性を共有して連携を熱心に進めてきた中には、すでに成果が表れ、好循環が形成されているところもある半面、連携に対してリアルなイメージを描けず、後回しにするか表面的な対処にとどまっているところも多く、両者は二極分化の様相さえ示している。

キーワード: 高校, 地域, 連携, 協働, 地方創生

1. はじめに

近年、高校と地域の連携・協働に関わる状況は急速に変化している。この動きには筆者もいくらか関与しており、それゆえに見えてくることも多い。あくまでも筆者の周囲における動きである、という点をふまえつつ、最近の動向や現状を紹介し、現在がどんな局面にあるのかを探ってみたい。

2. 最近数年間の変化

高校と地域の連携・協働は、国が地方創生を打ち出す前夜の2013年頃には、「隠岐島前高校魅力化プロジェクト」の成功をヒントに、すでに各地で実践例が現れはじめていた。それは「18歳人口の流出防止や若者の地元回帰をはかりたい」という地方自治体等の願いと「生徒の学習意欲やキャリア意識を高めたい」という高校の期待が重なっての動きだった。

ただ、当時は未だ教育面でも地域振興面でも施策に確かな位置づけはなされておらず、各組織内でも十分なコンセンサスは得られず、「一教員・一校長レベルのゲリラ戦」ともいいうる実践だった。それゆえ非常に不安定であり、たしかの実績も収められず、十分な普及性も伴わなかった。

大きな転機となったのは2014年末に打ち出された地方創生策だった。そして以後、どちらかといえば「地域の持続可能性向上」という文脈に沿っ

て、地域が主体となって、学校に働きかける形の連携が広まった。この間、各地に優良事例が続々と成立し、高校と地域が連携・協働する意義や効果に関する社会的認知も進行。2018年6月には「地域との協働による高校改革」が明記された「まち・ひと・しごと基本方針2018」が閣議決定されるまでになった。

他方、文部科学省は地方創生策も一つの背景として「社会に開かれた教育課程」を軸とする新学習指導要領を2018年3月に公示するとともに、「コミュニティ・スクール」推進策を打ち出す等した。

以上、数年前からは想像もできないほど「高校と地域の連携・協働」をとりまく環境は一変した。

3. 最近約1年間の変化

(1) 連携熱は全体的には上昇

文部科学省が2016年度事業として「首長部局との協働による新たな学校モデルの構築事業」を打ち出した時、熱心な周知が行われたにもかかわらず、これに応じる高校は多くはなかった。対照的に、2019年度事業として打ち出された「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」では、さほど周知に力を入れなくても話題となって広まり、公募に先んじて開催された事業説明会には約400名の出席者があった。このうち「地域魅力化」の類型では、全国で20件の採用枠に対して、同一県

内で複数校が競合する例もあったようだ。このように、この1年は明らかに連携熱が高まっている。

（2）連携は「着手」から「定着」へ

今年度、明らかに増加したのは「地域連携を始めてみたものの、未だ腹落ちしていない職員が多く、下手をすると元に戻りかねない。力を貸してほしい」という趣旨の依頼だった。それに対しては、「社会に出てから求められる力から逆算して高校段階で身につけるべき力」として「よりよい提案を行えるよう、より正しい仮説を形成していく力」を平易に伝える対応を行うこととした。

このうち、地域に出るべき必要性については、「自分が地域に対して行う提案(仮説)が正しいかどうかは、仮説が成立する前提条件を地域で検証しないと分からない」という形で伝えるようにしてから、手応えを強くしているところである。

（3）進学校でも連携熱は上昇

以前は「地域連携」といえば「統廃合がかかった過疎地の小規模校」の代名詞であり、進学校は「自分達は関係ない」という感じだった。しかしこの一年、とくに下半期、地方公立進学校からの出講依頼が相次いだ。

筆者自身、前職の高校教員時代には進学校に勤めた年月が長かったため、一筋縄ではいかないことは骨身に染みて分かっている。そこで改めて、依頼元の先生方に想いを聴くと、近年の教育改革に対して「教科学力を十分につけて進学させ、大学で専門性を高めた先にこそ、課題発見・解決能力や『社会に開かれた教育課程』は意味をもつ」という考えが強まっていることが伝わってきた。

そこで、上記の「より正しい仮説を形成していく力」と各教科で身につけるべき学力がどのようにつながっているのかに言及するように努め、共感を得ることができている。

（4）地域でアクションを起こす高校生の増加

自分が考案した企画を地域で実践し、反響や感謝を肌で感じることであれば、自己肯定感や社会参画意欲は間違いなく向上する。また、仮説を検証する機会としても機能する。そのような認識から、加えて、高校生が地域で実行するプロジェ

クトの甲子園ともいうべき「マイプロジェクトアワード」が年を追って盛況の度を高めていることを背景に、生徒を地域へ積極的に送り出す高校が増え、地域課題の発見や解決に挑戦し、地域で活躍する生徒が増えている。

（5）地域連携と高大接続を有機化する動きも加速

早くから地域連携に着手し、実践を積み重ねてきた高校では、大学入学者選抜でも評価の対象となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を高める場として、地域は最適だと確信する段階にまで至っている。そして、この3要素に基づく学力の向上を意識して地域学習を構築し、丁寧なふりかえりを通して「どのような活動を通して、どのような学びをしたのか」を言語化できるよう支援し、調査書の所見欄等にも活用していく試みも始めている。

また、その中には、AO入試や推薦入試等でこれまでにない実績を収める学校も現れている。

（6）教育委員会からの研修依頼も増加

2017年4月の法律改正により、コミュニティ・スクールの導入に努力義務が課されたことも背景に、この1年、教育委員会から研修依頼も入るようになった。そして「地域連携は、膨大な学校課題の一つではなく、様々な課題の一体的な解決に必要なインフラ」という構図について理解が広まりつつあるのを感じている、また、この考え方が今後10年の方針に反映された県も現れている。

4. おわりに

まだまだ少数派ながら、既に覚悟を決めて的確に対応している高校設置自治体や高校では、育つ生徒が変わり、地域が変わり、学校が変わり…という好循環が形成され、変革が加速し、希望の光が差している。対照的に、変化を拒んでいるところでは、多くが高校も生徒も地域も疲弊の度を深めている。

その先に懸念されるのは、二極分化による教育格差の進行である。今後はこの課題を解決する手立てを考えていきたい。

2018 年 主な出張実績

（教育による地域創生チーム 浦崎 太郎）

昨年 1 年間の出張から、今回の報告に関係が深いもの、特筆的なものを抜粋してリスト化した。

1 月 15 日(月)・岐阜県飛騨市 県立古城高等学校（視察）

同校が力を入れている地域課題解決型キャリア教育「YCK プロジェクト」のうち、生徒有志が課外活動として、伝統行事「三寺まいり」に「どのような形で参画したら地域の人達に喜んでもらえるか」を考えて実践する活動の現場を視察。

- 1 月 25 日(木)・東京 地域活性化センター 人材養成塾（講演）
- 2 月 7 日(水)・福岡市 内閣府 地方創生インターンシップ推進シンポジウム（報告）
- 2 月 10 日(土)・岐阜県関市 岐阜県博物館 探究学習 事例発表会（講演）
- 2 月 14 日(水)・岡山市 岡山県社会教育主事等研修会（講演）
- 2 月 16 日(金)・埼玉県坂戸市 筑波大学附属坂戸高等学校（講演）
- 2 月 20 日(火)・東京 国立社会教育実践研究センター 社会教育主事講習[B]（講演）
- 2 月 23 日(金)・島根県益田市 ふるさと教育マルシェ（講演）
- 2 月 24 日(土)・山形県山形市 第 4 回 SCH シンポジウム（講演）
- 2 月 26 日(月)・山形県米沢市 学園都市推進協議会 講演会（講演）
- 3 月 3 日(土)・島根県益田市 益田ひとづくりフォーラム 2018（総括）
- 3 月 17 日(土)・鹿児島県伊仙町 いせん寺子屋 閉講式記念講演会（講演）
- 3 月 23 日(金)・東京 ふるさと就職応援ネットワーク（講演）
- 3 月 26 日(火)・宮崎市 県教育研修センター 職員等研修（講演）
- 4 月 20 日(金)・富山県砺波市 となみ政経懇話会（講演）
- 4 月 20 日(金)・富山県砺波市 砺波青年会議所青年部（講演）
- 4 月 21 日(土)・岡山県矢掛町 やかげ小中高こども連合（講演）
- 4 月 28 日(土)・新潟市 みらいず works 高校キャリア教育 情報交換会（話題提供）
- 4 月 30 日(月)・新潟県佐渡市 学校と地域の協働による島づくり研修会（講演）
- 5 月 2 日(水)・岐阜県中津川市 区長会連合会総会（講演）
- 5 月 3 日(祝)・新潟県南魚沼市 県立国際情報高等学校（生徒むけ講演） ※ 進学校
高校生が課題解決活動に参画する意義や価値について、古城高校関係者とともに講演。
- 5 月 14 日(月)・岡山市 岡山県教育庁 情報交換会（話題提供・意見交換）
義務教育・高校教育・社会教育を有機化する重要性について言及。この時の内容は、同県における今後 10 年間（2019～2028 年度）の教育方針を記した「岡山県高等学校教育体制整備実施計画」に一部反映され、後日、新 10 年最初の校長会（2019 年 4 月）で講演を務めた。
- 5 月 14 日(月)・広島市 広島県教育委員会 情報交換会（話題提供・意見交換）
- 5 月 15 日(火)・岐阜県中津川市 中津川市高大接続事業（高校生むけ講演）
- 5 月 18 日(金)・札幌市 札幌藻岩高校 生徒向け講演／職員研修（講演）
- 5 月 19 日(土)・北海道幕別町 20 年後の十勝を考える会 ＝ 自治体職員有志研修会（講演）

十勝管内 19 市町村が共同で高校生を受け入れる基盤を創設することを提案。

- 5月20日(日)・北海道広尾町 ひろお未来塾(ミニ講演)
- 5月20日(日)・北海道浦幌町 高校生団体「浦幌部」進路探究勉強会(講演・意見交換)
- 5月21日(月)・札幌市 市立大通高等学校(見学・情報交換)
- 5月22日(火)・北海道登別町 登別明日中等教育学校 職員研修会(講演)
- 5月26日(土)・東京 全国首長連携交流会(講演)
- 5月28日(月)・岐阜県飛騨市 岐阜県立古城高等学校 企画会議(助言)
- 高大接続の大関心事である「e-ポートフォリオ」、同校の地域課題発見解決活動「YCKプロジェクト」、教科学習の有機化を、「ふりかえり」を軸に進めていく可能性を提案&協議
- 6月4日(月)・静岡県牧之原市 牧之原市教育委員会 コミュニティ・スクール勉強会(話題提供)
- 6月11日(月)・岐阜県飛騨市 県立古城高等学校(助言)
- 5月28日の訪問時に検討を依頼した件について協議し、概ねこの方向で進めることが確定。
- 6月12日(火)・WEB 講義 兵庫教育大学(現職院生むけ講演)
- 6月14日(木)・新潟県燕市 県立分水高等学校(助言)
- 6月15日(金)・新潟県南魚沼市 新潟県立国際情報高等学校(視察・情報交換) ※進学校
- S GH発表会視察や地域連携の在り方(特にe-ポートフォリオの活用)について情報交換。
- 6月21日(木)・福岡市 九州産業大学(情報交換)
- 6月21日(木)・福岡市 福岡県内「高校×地域」有志の懇親会(情報交換)
- 6月22日(金)・山口県周防大島町 県立周防大島高等学校(情報提供)
- 6月22日(金)・広島市 広島県教育委員会事務局学校経営支援課(助言)
- 来年度、県内すべての県立高校等にコミュニティ・スクールを導入する予定の同県において、関係職員約10名に実務的な助言。特に、「必要性を説く」のではなく「成長する喜びを共有する」仕掛けづくりや、「いきなり全面展開」ではなく「1人を育てるところからノウハウの共有を始めて、成長エピソードが伝わると効果的」と強調。
- 7月3日(火)・新潟県燕市 県立分水高等学校(助言)
- 7月4日(水)・岐阜県飛騨市 県立古城高等学校(生徒むけ講演)
- 大学入学者選抜改革(特にe-ポートフォリオ)に対応するため、「地域課題解決プロジェクト」で「ふりかえり」を丁寧に行い、自分自身の意識・見方・考え方を活動前後で対比することによって、自身の成長を自覚し、言語化する重要性について講演。
- 7月9日(月)・兵庫県尼崎市 県立尼崎高等学校(助言)
- 7月9日(月)・神戸市 兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス(現職院生むけ講演)
- 7月12日(木)・三重県津市 小規模高校長研修会(講演)
- 7月13日(金)・岡山県矢掛町 (高校・大学・地域の三者連携に関する協議)
- 7月19日(木)・高知県本山町 県立嶺北高等学校(生徒・職員・地元むけ講演)
- 7月20日(金)・徳島県阿南市 県立富岡西高等学校(情報提供・意見交換)
- 7月28日(土)・東京 地域活性化センター 土日集中セミナー(講演)
- 7月31日(火)・横浜市 神奈川県教育委員会「学校と地域との協働推進」研修(講演)
- 8月3日(金)・千葉市 「持続可能な学校づくり」シンポジウム(話題提供)
- 学校事務職員を主とする自主研修会で「教員の多忙化解消」と「地域連携」の関連性について言及。
- 8月4日(土)・静岡市 高校生の地域貢献を考えるシンポジウム(講演)
- 8月6日(月)・岐阜県飛騨市 県立古城高等学校(助言)
- 夏休み中の地域活動後に行う「ふりかえり」の内容を調査書にどう反映するか等について協議。
- 8月6日(月)・岐阜県可児市 NPO法人 縁塾 研修会(講演・意見交換)

- 8月13日(月)・東京 国立社会教育実践研究センター 社会教育主事講習[A] (講演)
キャリア教育で社会教育が果たすべき役割の大きさや可能性について講義。
- 8月20日(月)・広島県大崎上島町 SCH シンポジウム西日本大会 (講演)
- 8月27日(月)・兵庫県尼崎市 県立尼崎高等学校 (助言)
- 8月27日(月)・京都府福知山市 府立大江高等学校 (助言・情報交換)
- 9月2日(日)・岐阜県高山市 飛驒の担い手育成を考える研修会 (講演)
- 9月6日(木)・山形県新庄市 私立新庄東高等学校 (情報交換)
- 9月6日(木)・山形県新庄市 最上で生きる中小企業魅力発信セミナー (講演)
産業人材の育成や採用をはかるために経済界が高校や高校生とどのように関わればよいか講義。
- 9月7日(金)・山形県新庄市 県立新庄北高等学校 (助言)・県立新庄南高等学校 (情報交換)
- 9月7日(金)・岩手県遠野市 県立遠野高等学校 (情報交換)
- 9月8日(土)・岩手県盛岡市 高校生が地域で学びを深めるための講演・ワークショップ (講演)
- 9月14日(金)・宮城県えびの市 県立飯野高等学校 地域系志望者むけ講演会 (講演)
- 9月15日(土)・新潟県上越市 「有恒高校の未来を考える会」 (講演)
- 9月16日(日)・東京 R-SIC (Ridilover Sosial Issue Conference) (話題提供)
- 10月1日(月)・広島市 広島県教育委員会事務局学校経営支援課 (助言)
- 10月1日(月)・岡山県笠岡市 全国離島振興協議会 理事会 (講演)
- 10月3日(水)・東京 JFA社会連携コアチーム 情報交換 (話題提供)
- 10月15日(月)・岩手県盛岡市 「岩手の高校教育を考える市町村長懇談会」設立総会 (講演)
岩手県議会議員と岩手県内の市町村長がほとんど揃う研修会で、高校と地域の連携や協働を県内の全市町村が共同で進めるべき重要性について講演。
- 10月17日(水)・茨城県つくば市 教職員等中央研修 第2回 事務職員研修 (講演)
- 10月18日(木)・青森市 青森県立総合社会教育センター (講演)
- 10月31日(水)・静岡市 高校教師有志「地域探究」勉強会 (講演)
- 11月1日(木)・岡山県井原市 井原市『きょう育』ネットワーク懇談会 (講演)
新市長・大舌勲氏(前・同市教育次長)が掲げる「人づくり」施策にむけた気運を醸成するための企画で、幼保～高校関係者や地域関係者をはじめ、約100名が参加。
- 11月2日(金)・宮城県石巻市 石巻専修大学 (情報提供・協議)
- 11月9日(金)・長崎市 長崎県庁 教育機関と地域の連携にかかる勉強会 (講演)
企画振興部長はじめ、同部・産業労働部・教育庁等から約70名の県職員が参加。人口減少問題に対して高校の地域連携で手を打つ有効性を提唱。
- 11月9日(金)・長崎県松浦市 県立松浦高等学校 (生徒むけ講演)
- 11月9日(金)・長崎県佐世保市 県立佐世保西高等学校 (生徒むけ講演)
- 11月10日(土)・長崎市 行政職員・教職員 有志研修会 (講演)
- 11月12日(月)・高知県四万十町 県立窪川高等学校 情報交換会 (話題提供・情報交換)
- 11月12日(月)・高崎市 高校教職員 有志研修会 (講演)
- 11月13日(火)・島根県雲南市 県立大東高等学校「SIM うんなん2030」(授業見学)
- 11月14日(水)・岐阜県飛驒市 飛驒市教育委員会 (情報交換)
同市が2019年度に始める「飛驒市学園構想」にむけた情報交換と打合せ。
- 11月15日(木)・富山市 学校・大学・地域の三者連携に関する勉強会 (講演)
- 11月16日(金)・新潟県南魚沼市 県立国際情報高等学校 (視察) ※ 進学校

5月3日の講演等もふまえ、SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)の一環として地域課題発見・解決活動を導入した成果を視察。特に熱心な1年生は地元の雪まつりに参画すると知る。

11月16日(金)・新潟県津南町 県立津南中等教育学校(協議) ※ 進学校

同校校長・進路指導主事・5年学年主任、桑原悠町長、総務課長と、今後の地域課題研究の進め方について協議。「地域課題の解決策を考案し、自ら地域に出て実践し、検証する」重要性について共通理解が得られ、この線で進めることが確定。

11月18日(日)・鹿児島県瀬戸内町 瀬戸内町近未来会議(講演)

11月21日(水)・宮崎市 九州地区教育研究所連盟 研究発表大会 宮崎大会(講演)

医療福祉の世界で進行する「多職種連携教育」がもつ社会的・時代的・教育的な価値について解説。

11月22日(木)・宮崎県えびの市 県立飯野高等学校 職員研修会(講演)

11月23日(祝)・宮崎市 宮崎大学医学部 多職種連携教育「ごちゃまぜ師」養成講座(講演)

11月26日(月)・山形県新庄市 県立新庄北高等学校 職員研修会(講演) ※ 進学校

11月27日(火)・宮城県石巻市 石巻専修大学と圏域高等学校の懇談会(講演)

11月27日(火)・宮城県石巻市 宮城県高等学校特別活動研究会 地区研究会(講演)

高校生を地域活動に送り出す上で大きな役割を担いうる、各校の特別活動部担当教員にむけて、その価値と期待される具体的な役割について講義。

11月29日(木)・新潟県津南町 県立津南中等教育学校(生徒むけ講演) ※ 進学校

11月16日の協議結果に基づいて5年生に講演。

12月1日(土)・北海道釧路市 地域教育創造フォーラム2018(講演)

12月8日(土)・北海道音更町 十勝管内教育振興会 教育講演会(講演)

十勝管内小中学校の校長と教頭(約170名)を対象に、地域の持続可能性向上にむけ、地域と連携した教育活動を、高校入学後を見据えて、十勝全域で面として展開していくべき重要性について講演。事後、「小中学校と市町村を起点に十勝管内の高校教育を変えていくプラン」が浮上。

12月14日(金)・岐阜県飛騨市 飛騨市学園構想にむけた管理職研修会(講演)

飛騨市内の小中高校等の管理職を対象に、「飛騨市学園構想」の具現化にむけて、異校種間縦貫と地域連携を一体的に推進していくべき重要性を講義。

12月17日(月)・岡山県井原市 市内3高校・行政・市民団体等 合同研修会(講演)

12月17日(月)・広島市 広島県教育委員会事務局学校経営支援課(助言)

12月18日(火)・島根県益田市 県立益田高等学校 職員研修会(講演) ※ 進学校

12月19日(水)・島根県津和野町 県立津和野高等学校(情報交換)

12月26日(水)・三重県鳥羽市 地域創造サミット(視察)

県内および全国各地から参加した高校生に対して助言。

12月27日(木)・山形県米沢市 県立米沢興譲館高等学校 職員研修会(講演) ※ 進学校

【番外編】2019年1~2月分(抜粋)

2月6日(水)・札幌市 北海道総合教育会議(講演)

「地域創生と教育」という演題で講演。

2月14日(木)・広島市 広島県教育委員会 校長研修(講演)

「学びの変革とコミュニティ・スクール」という演題で、同県が推進する「学びの変革」をいっそう充実していくためのインフラが「コミュニティ・スクール」であり、種々の学校課題を一体的に解決するために「対話」が重要である構図について、高校等の校長を対象に約80分講演。